

#### 4. 募集・選考にあたっての領域総括の考え方

領域総括：片山 恒雄（東京電機大学 教授）

最近の社会情勢を見ていると、犯罪からの子どもの安全が大切な課題であることは誰の目にも明らかです。問題は、この課題が従来の多くの研究開発課題とはだいぶ異なる性質を持っていることです。従来の多くの課題は、時代の最先端に行く研究者が、それぞれもともと得意とする分野で研究成果を競い合うことによって成り立っていました。しかし、今回の新しい分野を犯罪という面から見ると、警察というかなうことのできないプロ集団があります。

ただ、毎日の生活の中で、子どもの安全を自分自身の身近な問題として捉えている方々は、社会のあらゆるセクターにおられます。このように問題を抱える人たちが、問題解決の手段を持つ人たちと共同で作業することによって、両者にとって意味のある具体的な成果を生み出していただきたい。

研究のための研究は望むところではありません。研究開発費は単なる助成金ではないのです。応募を希望するグループにおいては、研究代表者が中心となって、研究の目的と限られた期間内での達成目標をなるべく具体的に定めていただくことが特に大切になります。

この研究開発領域で求められているのは、個別的な研究課題の単なる足し合わせではありません。採択された課題が相互に関連しあい、有機的に結びつくことによって、「犯罪からの子どもの安全」に役立つ成果が得られることが重要なのです。

適切な研究グループをつくって、最も必要度が高い課題を対象に研究を進めることが求められます。優れたプロジェクトを作るためには、時間と費用が必要ですから、この研究開発領域では、プロジェクトの企画調査の実施に関しても、6ヶ月、数百万円規模の公募を行うことにしました。また、プロジェクトが発足した後も、それぞれの研究課題が全体の研究開発領域の中でどのように関連すべきかについて議論を交わし、必要に応じて軌道修正をしていただきながら、プロジェクトが全体として望ましい方向へ向かうことにご協力いただかなければなりません。

難しい研究開発領域ですが、それだけにやりがいがある分野ともいえます。多くの方々のご協力を期待しています。